

第1学年3組 国語科学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水) 9:20~10:05 【場所】1年3組教室 【指導者】中原 侑也

本授業の参観の視点

図書室でたくさんの人に読んでもらうために「生き物かくれんぼ図鑑」を作ります。図鑑作りに没頭している児童が、科学読み物の文章にある重要な語や文は何かを考え、選び出していく姿をご覧ください。

1 単元名 「生き物かくれんぼ図鑑」を作って読んでもらおう ~ 「うみのかくれんぼ」(光村図書 1年上) ~

2 単元の構想

(1) 単元について

本教材「うみのかくれんぼ」は、6月に学習した「つぼみ」に続く、2つ目の説明的な文章である。3種類の海の生き物がどこでどのように身を隠し、自らの命を守っているかについて解き明かしている。「つぼみ」の教材では、事例1つずつに問いと答えがあり、3つの一問一答式列举型の文章構成であった。しかし、本教材は、大きな問い1つに対し、答えが3つ書かれている一問多答式の文章構成となっている。問いの内容に関しても、「なにが隠れているのか」「どのように隠れているのか」と2つの視点から問われている。

また、事例として挙げられている3つの生き物は、それぞれ3文の同じ文型で説明されていて、いずれも1文目「生き物の名前と場所」、2文目「体の特徴」、3文目「隠れ方」を示している。問いに対する直接的な答えは、1文目の「生き物の名前(何が)」と3文目の「隠れ方(どのように)」に当たる部分である。しかし、1文目の「どこに(場所)」や2文目の「どんな(体の特徴)」があることと、写真もこれらの順序に合わせて効果的に示されていることで、隠れ方の説明が捉えやすくなっている。

よって、この教材は、問いに対する答えを見付けるために大事な言葉に着目し、文章表現上の事柄の順序を捉えながら読むことのできる教材であると言える。そして、自分の経験や知識と結び付けながら読むことで、生き物の生態の面白さや不思議さ、素晴らしさに出合える教材であるとも言える。

(2) 児童について

本学級の児童は、「言葉の資質・能力」において、前説明文「つぼみ」で本文を4つのまとまりに分け、「問い」と「答え」に着目しながら文章を読んだ。内容の読み取りの他にも、「問い」の次に「答え」があることに気づき、「問い」と「答え」の順序性を考えながら、内容の大体を捉えることができた。また、図鑑や科学的読み物を読み、「問い」と「答え」を述べながら生き物を紹介する言語活動も行った。

児童にとって、かくれんぼは身近な遊びであり、「うみのかくれんぼ」を読む際には、身を隠すという点において共通性を感じ、親しみや驚きをもって読んでいくことが予想される。内容面としては理解しやすいと思われるが、問いや事例における情報量が増えることから、説明文を読む経験が浅い本学級の児童にとって、文章中の重要な語や文を精査・解釈し、選び出すことは容易でないとと言える。

「学び方の資質・能力」においては、物語文「はなのみち」の「紙芝居をしよう」や、説明文「つぼみ」の「生き物を紹介しよう」の学習で、「どのような準備が必要か」を考えながら学習を進めることができた。また、「次の学習で何をしたらよいか」を考えながら学習を進める児童も少ないながらも見られた。このようなことから、学習のゴールに向けて何をすべきか「段取り」を付けている段階だと言える。

(3) 指導について

指導に当たっては、『「生き物かくれんぼ図鑑」を作って読んでもらおう』という言語活動を設定する。

第一次は、身を隠しながら生活している生き物を題材にした科学読み物を読み、クイズ形式で何の生き物が隠れているのかを問うことで、「もっとかくれんぼをしている生き物を探してみたい」という思いを引き出していく。その思いから、自分たちオリジナルの『「生き物かくれんぼ図鑑」を作って読んでもらおう』という言語活動のゴールを設定する。次に、教科書教材を使った「うみのかくれんぼ図鑑」を作ってみる。その

活動の中で、前教材の説明文「つぼみ」と比較しながら問いと答えの関係を確認したり、答えの文の短冊を並び替えたりしながら文章表現上の構成（事柄の順序）に着目できるようにしていきたい。そして、第二次で自ら図鑑を作っていくことのイメージがもてるようにしていきたい。

第二次は、科学読み物を読んで、生き物かくれんぼ図鑑のシートに書く活動に取り組む。その際には、用意された資料から興味のある生き物を選び、多くの種類を書いてよいことを伝える。「自分たちが作った図鑑を読んでほしい」という思いをもち、書くことに没頭する中で、教師の問いかけや友達との交流によって学びを俯瞰し、少しずつ書き方が更新されていくことを期待する。例えば、問いに対する答えを、順序に気を付けながら書いている姿などである。「名前と場所」「体の特徴」を明らかにすることで、それらが「隠れ方」を示す理由付けとなり、かくれんぼの様子が伝わりやすくなる。そのために、第一次の「うみのかくれんぼ図鑑作り」で学んだことを汎用しながら作成している児童の図鑑を価値付ける。その姿をモデルとすることで、他の児童が自分の作品と向き合うきっかけをつくる。このような、教師による問いかけや友達との対話により、児童が学びを俯瞰できるようにしたい。また、次の学習でどのように活動を進めていくか「段取り」を付けている姿や、粘り強く取り組んだり友達と協力して学んだりしている姿を紹介して価値付け、学び方についても考えることができるようにしたい。

第三次は、第二次でたくさん書いた、生き物かくれんぼ図鑑のシートを重ねてまとめる活動を行う。具体的には実生活で見ると同じカテゴリーの生き物（海、海辺、森、草むら等）に分類し、オリジナルの図鑑を完成させる活動である。その際、問いがいくつも書いてあることに注目できるようにする。そうすることで、「うみのかくれんぼ」のように、問いは1つでよいことにも気付くことができるようにしたい。そして、学習を振り返ったり、図鑑を読んだりすることで学びの達成感と有用感を味わわせたい。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「同単元・領域」	国語科 「うみのかくれんぼ」	・文の中における主語と述語との関係に気付いている。 【知識及び技能】 ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	・「だれがどうする」の文型を捉えている。 ・「なにが」「どのように」隠れているのか捉えている。 ・どのように文章を構成されているかという文章表現上の順序を考えながら、内容を把握している。
ステージB 「同教科」	国語科 「つぼみ」	・文の中における主語と述語との関係に気付いている。 【知識及び技能】 ・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	・「だれがどうする」の文型を捉えている。 ・「問い」に対する「答え」の順序を捉えている。
ステージC 「他教科」	生活科 「砂遊び」 「ダンゴムシと遊ぼう」	・身近な自然を利用して遊び、その面白さや不思議さに気付く。 【知識及び技能】	・どうして蛤は素早く潜ることができるのか、場所や体の特徴を捉えながら考えている。 ・ダンゴムシの観察をした経験を想起し、ダンゴムシの隠れている場所や隠れ方を伝えている。
ステージD 「実生活・実社会」	図鑑や 科学読み物を 読む	・図鑑にはどのような内容が書かれているか考えている。 【思考力、判断力、表現力等】	・図鑑や科学読み物を読み、大事な言葉や文を選びながら、「何が」「どのように」隠れているのかを捉えている。

児童がもっている考えや書いている内容を紹介したり、同じ生き物についてまとめている児童との対話を促してみたりすることで、他者との回遊が生まれ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

図鑑作りを通して、文章の中の重要な語や文を選び出したり、事柄の順序を考えたりしながら教材や資料を読むとともに、それらを粘り強く読み、分かったことを伝えようとする態度を養う。

(2) 評価規準

- ア 文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。【知識・技能】
- イ 文章中の重要な語や文を考えて選び出し、事柄の順序を考えながら読むことができる。【思考・判断・表現】
- ウ 図鑑を作るために、どのような学習が必要かを考えたり、粘り強く取り組んだりしている。

【主体的に学びに向かう態度】

4 単元の指導計画（全8時間 本時4／8時間目）

次	時	主な学習活動 (○)	指導上の留意点 (・)	評価規準 (◆) 【観点】	回遊
一	1	○読み聞かせやかくれんぼクイズを楽しみながら、かくれんぼをしている生き物を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から児童が手にして読んでいる図鑑を紹介したり、かくれんぼクイズを楽しんだりすることで、オリジナル図鑑を作成する意欲を引き出す。 ・「図鑑を作るためには、どんな学習が必要か」を問うことで、学習の「段取り」をつける。 ・生活科における「ダンゴムシと遊ぼう」や「砂遊び」での学習を関連付けることで、生き物がかくれんぼしている理由やその隠れ方を身近に捉えられるようにする。 ・前教材の説明文「つぼみ」と比較することで「うみのかくれんぼ」における「問い」と「答え」の構成を捉えられるようにする。 ・答えの文の短冊を並べる作業を通して、事柄の順序に着目し、答えの文章の構成を捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆これまでに図鑑を読んだ経験を想起したり、生き物のかくれんぼと自分たちのかくれんぼを比べたりしながら、生き物のかくれんぼに関心を広げている。【主】 ◆図鑑作りのために、これからどんな学習をしていきたいか、どんな学習が必要かを考えている。【主】 ◆「はじめ」の問いが、「中」の答え全体にかかっていることを捉えている。【思・判・表】 ◆答えの文章が順序立てて書かれていることを捉えている。【思・判・表】 	D
	2	○「生き物かくれんぼ図鑑」を作るための段取りをつける。			C
	3	○教科書教材「うみのかくれんぼ」を使って試しに図鑑を作る。 【働く見方】 ・問いと答え ・答えの文章の構成			B
二	4 (本時)	○「生き物かくれんぼ図鑑」を作成する。 ・何がどのように隠れているか、大事な語や文を選びながら資料を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑には、たくさんの生き物が書かれていることから、没頭を促すために、たくさんの生き物について書いてよいことを伝えることとする。 ・「だれが隠れていますか。」と問うことで、主語と述語の関係を捉えることができるようにする。 ・事柄の順序に着目しながら書いている児童には、どうしてこの順序で書いているのかを問うことで、自分の文章を改めて見直し、自身も周囲の児童も学びを俯瞰できるようにする。 ・事柄の順序に着目していないながらも、問いに対する答えを見つけて、どんどん書き進めている児童に対しては、積極的に書けている姿を価値付け、没頭を遮らないようにする。 ・書き進められない児童に対しては、「問いは何か。」「答えはどこに書いてあると思うのか。」と問うたり、同じ生き物について書いている児童と一緒に書くことを促したりする。 ・第一次で学んだことを想起し、汎用できるように、教室には学びの足跡を残しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進んで資料を読み、かくれんぼをしている生き物について調べている。【主】 ◆文の中の主語と述語の関係に気付くことができる。【知・技】 ◆「何が」「どのように」隠れているのか、問いに対する答えを見つけることができている。【思・判・表】 ◆隠れている場所や体の特徴に着目しながら、生き物の隠れ方を捉えることができている。【思・判・表】 ◆目標の達成に向けて他者と協働したり、粘り強く取り組んだりしている。【主】 ◆どのように学んでいくか段取りを付けながら学習に臨んでいる。【主】 	D
	5	・「生き物かくれんぼ図鑑」のワークシートに、何がどのように隠れているかを記入する。			A
	6	・隠れている様子を伝えるために資料にある写真を切って貼り付ける。			B
三	7	○「生き物かくれんぼ図鑑」のシートをまとめる活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・シートをまとめる際に、いくつかの図鑑をもう一度提示する。そうすることで、児童は図鑑がカテゴリーに分けられていることに気付き、自分たちがまとめてきた生き物かくれんぼシートも、それぞれ分類できるようにする。 ・全てのかくれんぼシートには「問い」が書かれている。しかし、全てのページに同じ問いが必要なかを児童に問うことで、答えの全体にかかることのよさを、実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「はじめ」の「問い」が、「中」の「答え」全体にかかっていることのよさを捉えている。【思・判・表】 	D
	8	○クラスで読み合ったり、図書室に置いて、全校の児童に読んでもらったりする。			A

5 本時の指導（4／8）

(1) 指導目標

「なにが」「どのように」隠れているのか、大事な言葉を見付けながら読むことができるようにする。

(2) 評価規準

- イ 「なにが」「どのように」隠れているのか、問いに対する答えを書くことができる。【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の活動の段取りを確認する。(5分)</p> <p>・これまでうみでかくれんぼしている生き物についてたくさん調べてきたよ。</p> <p>・わたしはもくずしよいがすごいと思ったよ。はさみを使って海藻に変身するからね。</p> <p>・今日はかくれんぼの本を使って、お気に入りの生き物を探してまとめるぞ。</p>	<p>1-(1) <u>学びの連続性を感じることができるように、前時に学習したことや段取りを確認し、そこから本時の学びへの主体性を引き出すようにする。(A)</u></p> <p>1-(2) <u>主述の関係を捉えるために、「だれが」「どこで」「どのようなかくれかた」をしていたのか確認できるようなやりとりをしていく。(A)</u></p> <p>1-(3) 前時までに見られた「段取り」を考えながら学習したり、「うみのかくれんぼ」の図鑑作りに粘り強く取り組んだりした姿を価値付けることで、よりよい学び方への意識を高めるようにする。</p>
<p>めあて といと こたえに きをつけて いきものかくれんぼずかん を つくろう</p>	
<p>2 図鑑づくりをする。(15分)</p> <p>・これは何が隠れているのかな。</p> <p>・これはどのように隠れているのかな。</p> <p>・ちゃんと問いに答えないとね。</p> <p>・どう書いたらいいのだろう。同じ生き物について書いている〇〇さんはどう書いているかな。見に行ってみよう。</p> <p>・1次で作ってみた「うみのかくれんぼ」図鑑では、どのように書いてあったかな。</p> <p>・たくさん書くことができうれしいな。もっと書くぞ。</p>	<p>2-(1) 児童の没頭を促すために、興味のあるたくさん生き物について書いてよいことを伝える。</p> <p>2-(2) 「なにが」「どのように隠れているのか」書いてはいるが、場所や体の特徴などには着目せず、どんどん書き進めている児童に対しては、積極的に書いている姿を価値付けることで没頭していることを遮らないようにする。<u>他の児童との交流や掲示物等による俯瞰により、場所や体の特徴にも着目する姿に期待する。(他者)</u></p>
<p>◆ 生き物・場所、体の特徴、隠れ方に着目しながら、書くことができる。(発言) (ワークシート) 【思・判・表】</p> <p>B 「なにが」「どのように」隠れているのか書くことができる。</p> <p>C → <u>文章中の重要な語や文を一緒に考えて選ばせる。また、同じ生き物について書いている友達と一緒に書くことを促す。(他者)</u></p>	
<p>3 2つの作品の書き方を比べる。(8分)</p> <p>・先生の作品は、問いに対して答えているけど、何だかAさんより文章が短いよ。</p> <p>・Aさんは、先生より少し文が長いよ。</p> <p>・どうしてAさんは文が長いんだろう。</p> <p>・Aさんは体の特徴を書いているよ。そうすると、隠れ方が伝わりやすいね。</p> <p>・Aさんは「うみのかくれんぼ図鑑」を参考にしながら書いたんだね。</p> <p>・読む人にとってどっちが分かりやすいかな。</p> <p>・ぼくは、問いに対して答えきれているかな。もう一度自分の作品を読み返してみよう。</p>	<p>3-(1) 隠れている場所や体の特徴に着目しながら問いに対する答えを書いている児童の作品と、そうではない教師の作品を比べることで、それらを取り入れた方が隠れ方の様子がより伝わりやすくなることに気付くことができるようにする。</p> <p>3-(2) 字形のことなど、書き方以外のことについて発言する児童がいるだろう。そのような意見も受け入れながら、分かりやすく伝えるために、事柄の順序に気を付けて書くことのよさに目を向けることができるようにする。</p>
<p>4 図鑑づくりを再開する。(12分)</p> <p>・次の生き物では、体の特徴を付け加えて書いてみよう。</p> <p>・もう一度「うみのかくれんぼ」を読んで書き方を参考に書いてみよう。</p> <p>・次は〇〇さんが書いたものを参考に書いてみよう。</p>	<p>4 よりよい図鑑にしようと書き方を更新する児童には、「何に気を付けて書いていますか。」と問うことで、新たに学んだことを取り入れながら書いていることを自覚できるようにする。また、その姿は目標の達成に向けて粘り強く試行錯誤している姿だと捉え、その姿を価値付けていく。</p>
<p>5 学習を振り返る。(5分)</p>	<p>5 本時の学習で児童から見られた「言葉の資質・能力」と「学び方の資質・能力」の両面から、児童の姿を価値付けるようにする。</p>